

Jミルクが2022年6月3日に公表した「需給見通し(※2022年4月迄実績)」の予測値とその後の実績をグラフ化しています。

「牛乳乳製品統計(農林水産省)」の公表に併せて、今後も毎月配信していきます。

発行：一般社団法人Jミルク生産流通グループ

《需要は引き続き不透明～情勢変化に注視し、積極的な需要拡大を～》

・5月の需給実績について、都府県の生乳生産は前年並みに推移、北海道は前年を上回ったことから、全国でも前年を上回る生産となった。一方で飲用等向けは、家計負担増加による買い控え等も要因となり前年比98.9%と前年を下回った。結果、乳製品向は104.1%と前年よりも増加し、脱脂粉乳・バター等向の仕向量は依然として高い水準となっている。脱脂粉乳・バターの出荷量は前年よりも大きく増加しているものの、生産量の増加等が要因となり、月末在庫量は前月よりも増加した。

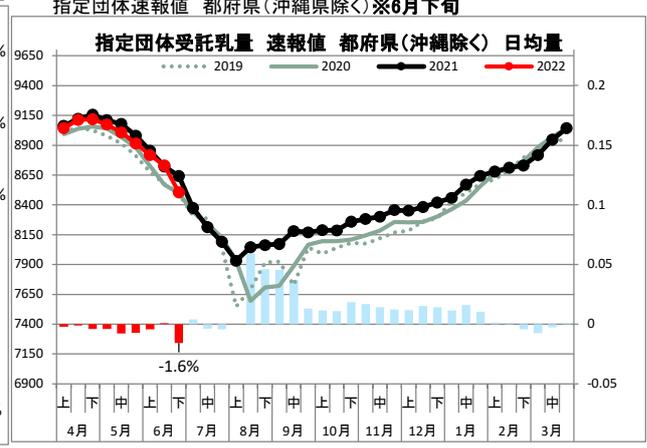
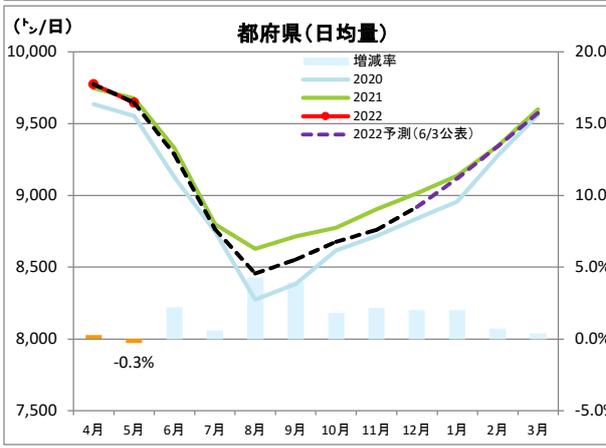
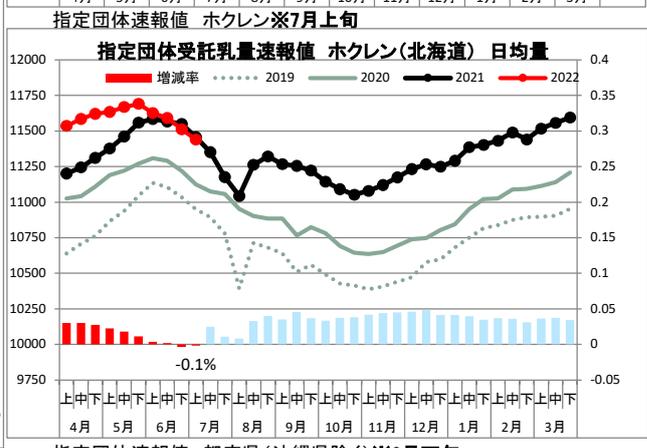
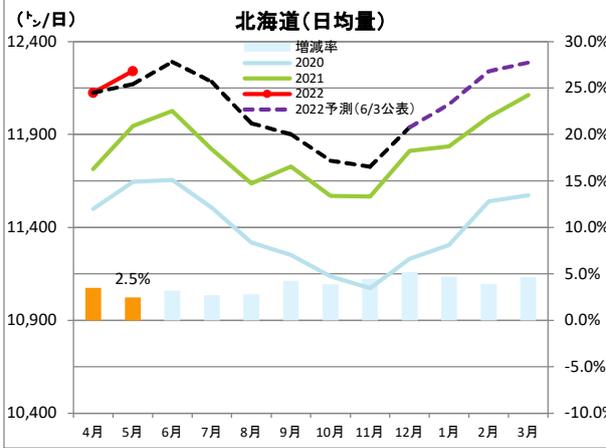
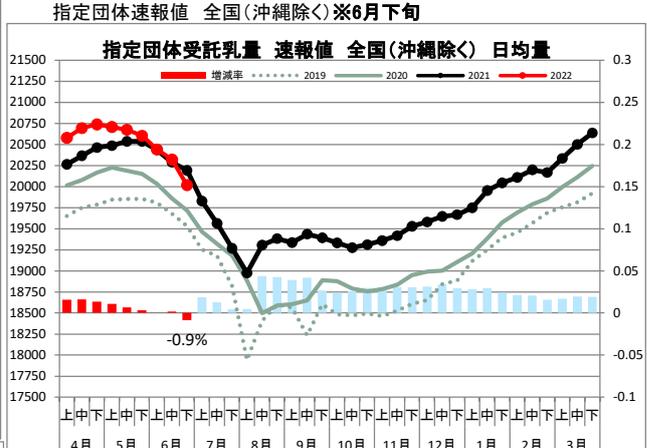
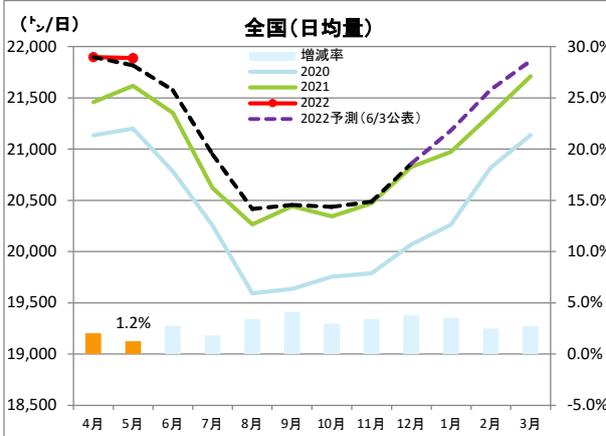
・6月の牛乳販売動向(インテージSR+実績：前年比94.1%、Jミルク予測(牛乳業務用以外)：99.1%)については、農水省の牛乳乳製品統計が高めに出る傾向を踏まえると需給見通しの予測値前後で推移している可能性が考えられる。直近7/4週の牛乳類の販売個数は99.2%と前年を下回って推移しているが、19年度比では104.1%とコロナ禍前の水準よりも増加している。6月下旬の関東圏における梅雨明けや連日の猛暑の影響により、6/20週から量販店での販売個数が増加傾向にある。ヨーグルト類は前年をやや下回る傾向となっているが、中でもドリンクタイプは前年並みをキープしている。

・業務用需要がやや回復傾向にあるなか、新型コロナ変異株による感染者数は増加傾向にあり、業務用需要の動向には注視が必要となる。一方で、食料品や燃料等の相次ぐ値上げは、家計の節約志向から、更に家庭内需要が減少する可能性を想定しておく必要がある。需要の見通しは今後とも不透明であるが、業界としては情勢変化を注視しつつ、飲用需要に対し安定供給を図り、引き続き家庭内需要を中心に積極的な需要拡大に取り組むことが重要となる。

【生乳生産量】※増減率は、日均量で算出。

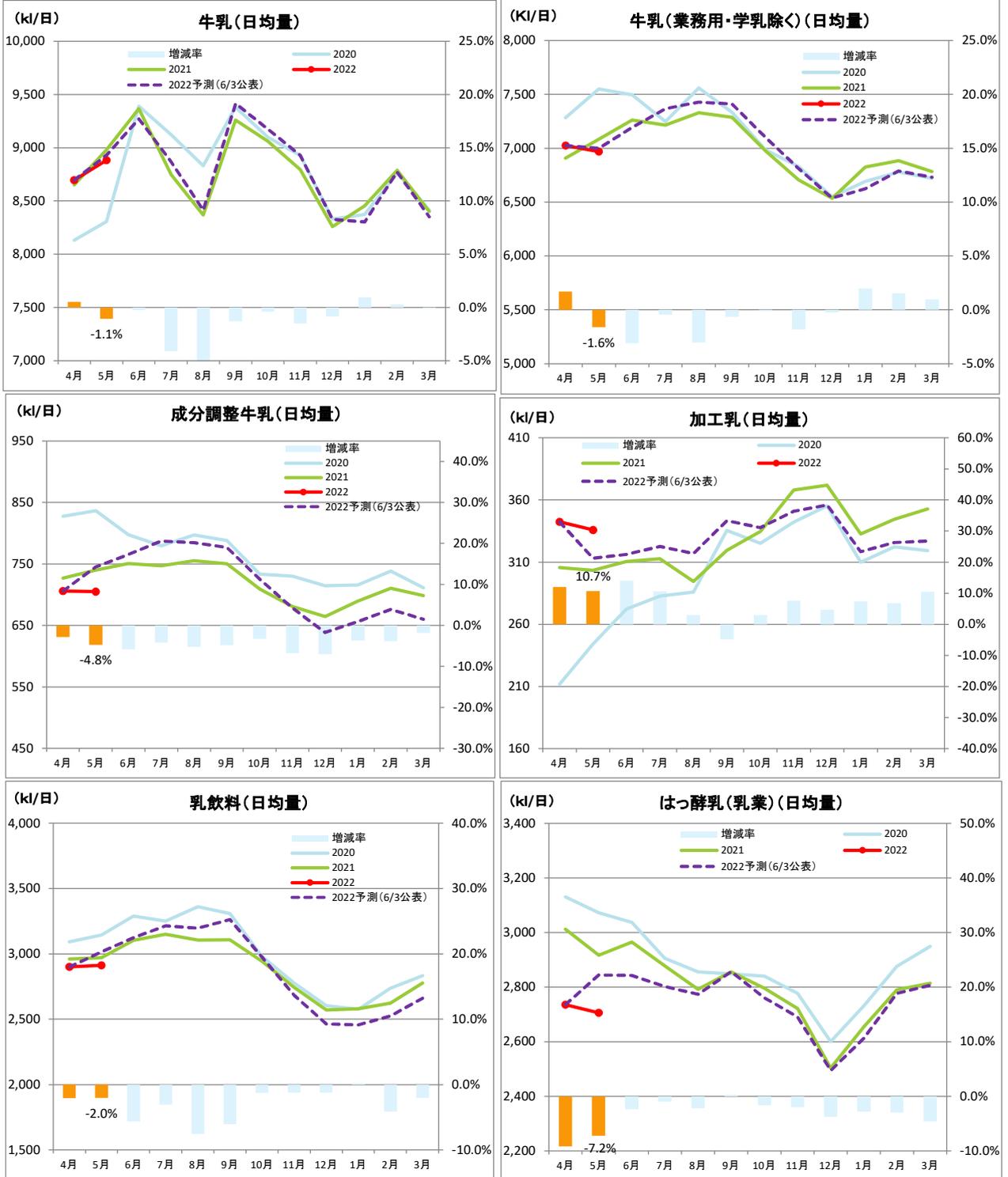
(1) 5月の生乳生産量は、全国679千ト(前年同月比101.2%)、北海道379千ト(同102.5%)、都府県299千ト(同99.7%)。

(2) 直近の指定団体速報値は6月下旬で全国が同99.1%、都府県(沖縄除く)が同98.4%、北海道は7月上旬で99.9%となっている。



【牛乳等生産量】※増減率は、日均量で算出。

- (1) 5月の牛乳等生産量は、牛乳275千kl(前年同月比98.9%)、成分調整牛乳22千kl(同95.2%)、加工乳10千kl(同110.7%)、乳飲料90千kl(同98.0%)となり、牛乳類合計では397千kl(同98.8%)となった。
- (2) 「牛乳」のうち、「業務用以外」は、同98.4%、「業務用」は同101.5%、「学乳」は同100.5%。
- (3) はっ酵乳(乳業)は84千kl(同92.8%)と前年を下回って推移している。
- また、非乳業実績(4月)については、同100.6%と前年並み水準となっている。

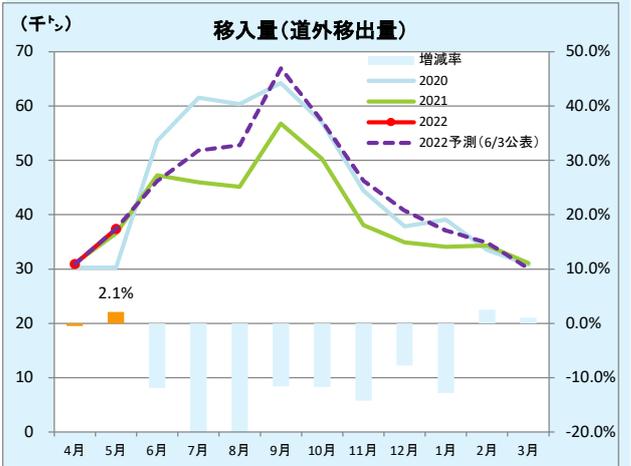
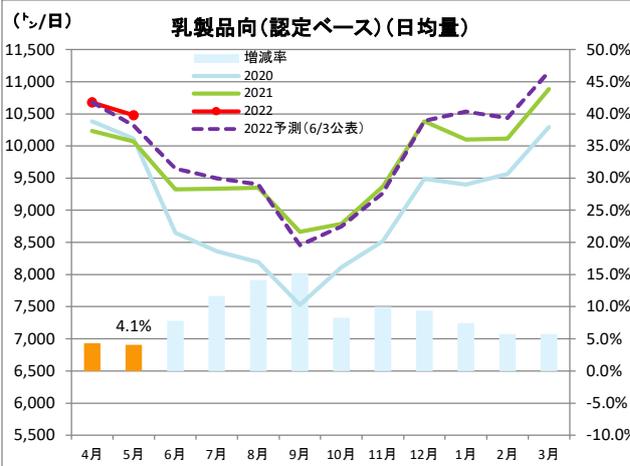
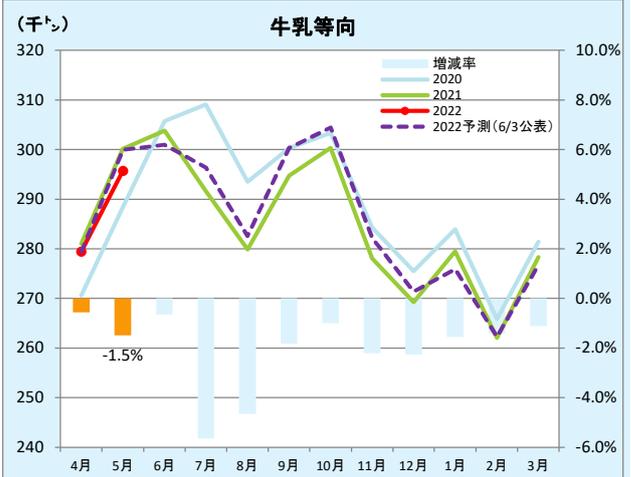
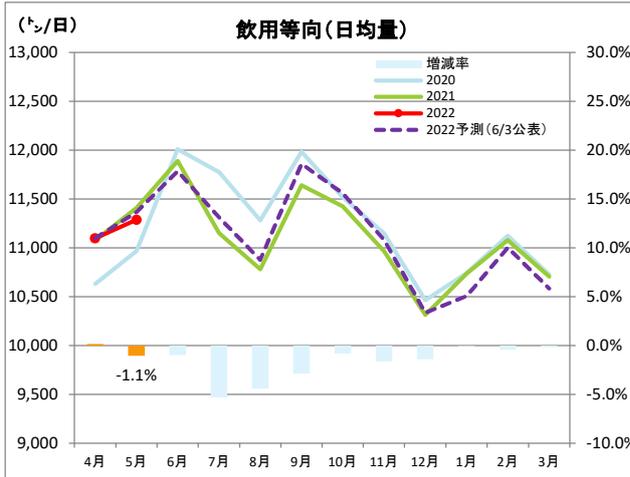
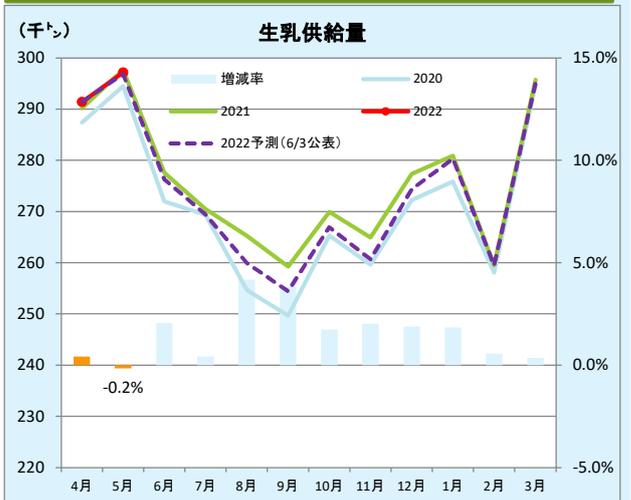
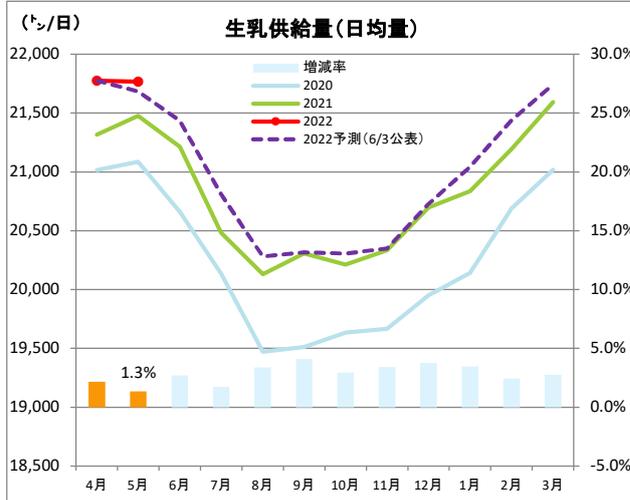


【用途別処理量(全国)】 ※増減率は、日均量で算出。

(1)5月の生乳供給量は675千ト(前年同月比101.3%)、飲用等向350千ト(同98.9%)、乳製品向(認定ベース)325千ト(同104.1%)。
 (2)飲用等向が前年を上回る推移となった一方、生乳供給量が増加したため、乳製品向は前年を上回った。

【都府県の生乳需給】

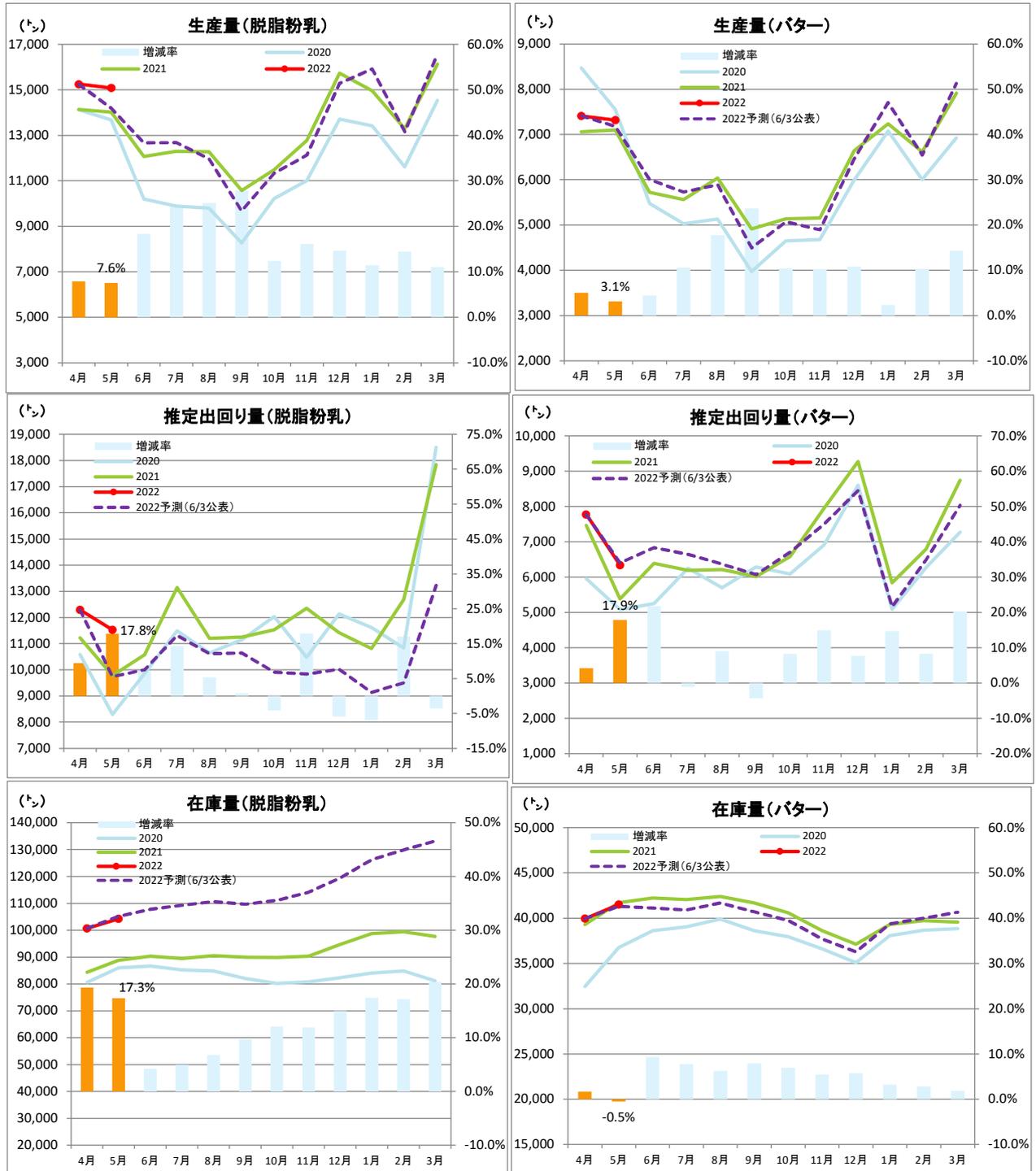
(1)5月は、生乳供給量297千ト(前年同月比99.8%)、牛乳等向296千ト(同98.5%)。
 (2)北海道からの移入量について、37.4千ト(同102.1%)と前年をやや上回った。



【脱脂粉乳・バター需給】

(1) 脱脂粉乳は、5月の生産量は15.1千トン(前年同月比107.6%)、推定出回り量は11.5千トン(同117.8%)、その結果、在庫量は104.2千トン(同117.3%)。推定出回り量よりも生産量が上回ったことから、在庫は前月よりも増加した。
 なお、6/3に公表した需給見通しとの比較では、生産量、推定出回り量ともに予測よりも上回り、在庫量はやや下回った。

(2) バターは、5月の生産量は7.3千トン(同103.1%)、推定出回り量は6.3千トン(同117.9%)、その結果、在庫量は41.5千トン(同99.5%)。
 なお、6/3に公表した需給見通しとの比較では、生産量、推定出回り量が概ね予測通りであったため、在庫量に大きな差はなかった。



【牛乳類の販売速報(推定値):インテージSRI+】 ※量販店・コンビニ等、小売店の販売実績

(1)6月の動向(表①参照)

・販売個数は、牛乳:前年同月比94.1%、成分調整牛乳:同96.7%、加工乳:同98.5%、乳飲料:同93.4%。
牛乳類では同94.3%

【参考】2020年度比…牛乳:89.3%、成分調整牛乳:91.7%、加工乳:89.3%、乳飲料:83.9%(牛乳類トータル:88.6%)

・販売単価は、牛乳:189.9円、成分調整牛乳:173.9円、加工乳:189.5円、乳飲料:149.8円。

(2)直近の週次動向(表②・グラフ参照)

・直近(7/4週)の販売個数は、牛乳:前年同期比99.2%、成分調整牛乳:同100.3%、加工乳:同99.3%、乳飲料:同98.3%。
牛乳類トータルでは同99.2%

【参考】2020年度比…牛乳:97.2%、成分調整牛乳:95.0%、加工乳:94.0%、乳飲料:88.5%(牛乳類トータル:95.6%)

・販売単価は、牛乳:189.7円、成分調整牛乳:174.4円、加工乳:190.4円、乳飲料:149.6円。

※出典 (株)インテージSRI+週データ。販売本数、販売単価(税抜)については推定値。データ転用はご遠慮下さい。

【表① 牛乳類の月別販売動向】

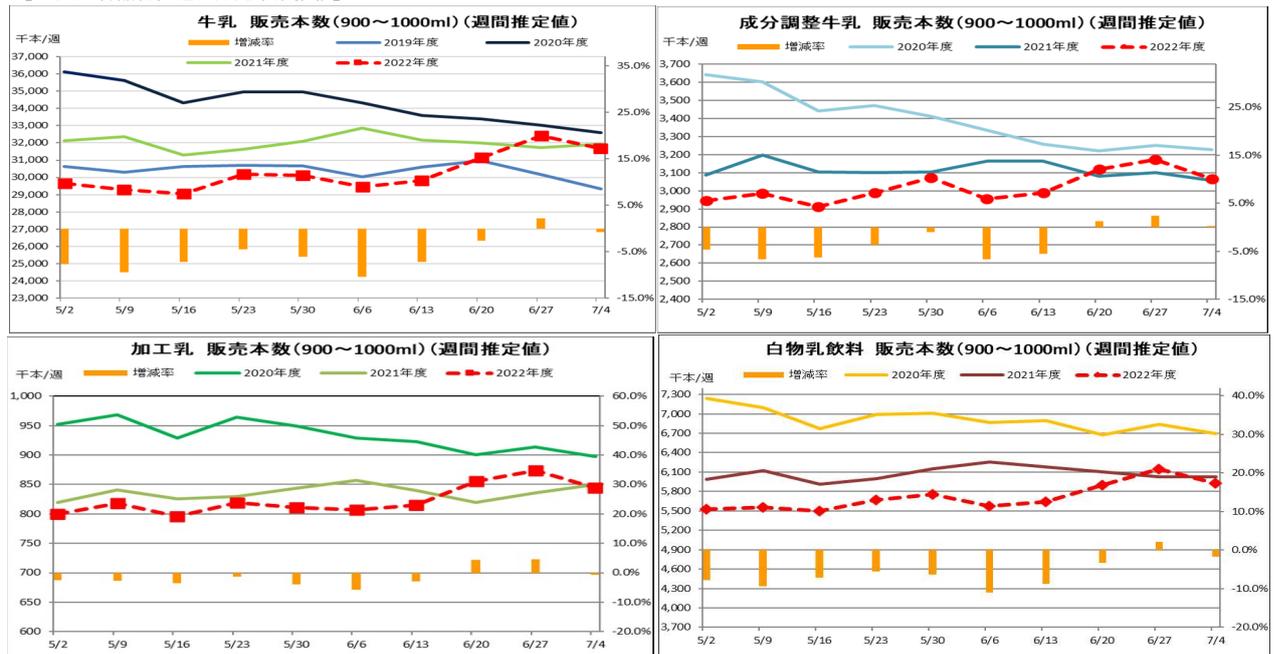
単位:千個、円

品目	区分	2022/1-	2022/2-	2022/3-	2022/4-	2022/5-	2022/6-
		販売個数	162,926	151,428	164,151	163,794	172,087
トータル	販売個数前年比	95.2	96.1	95.2	95.9	93.0	94.3
	販売単価	183.7	182.7	182.7	182.9	182.8	182.9
牛乳	販売個数	124,657	115,514	124,883	124,418	130,782	129,838
	販売個数前年比	96.1	97.1	95.4	96.0	92.7	94.1
成分調整牛乳	販売個数	190.5	189.4	189.5	189.9	189.7	189.9
	販売個数前年比	95.0	96.1	95.7	97.2	95.1	96.7
加工乳	販売個数	12,237	11,599	12,596	12,656	13,149	12,977
	販売個数前年比	98.0	99.3	98.3	99.1	97.2	98.5
乳飲料	販売個数	22,821	21,293	23,339	23,365	24,590	24,632
	販売個数前年比	90.4	90.6	93.3	94.3	92.6	93.4
トータル	販売単価	150.5	150.3	150.1	150.0	149.9	149.8

【表② 牛乳類の販売動向(直近の週次動向)】

品目	区分	5.16-	5.23-	5.30-	6.6-	6.13-	6.20-	6.27-	7.4-
		販売個数	38,248	39,667	39,766	38,789	39,278	41,033	42,618
トータル	販売個数前年比	92.9	95.5	94.3	89.9	92.7	97.7	102.2	99.2
	販売単価	182.7	182.8	183.0	182.9	182.9	182.8	182.8	182.9
牛乳	販売個数	29,046	30,192	30,127	29,451	29,835	31,157	32,421	31,683
	販売個数前年比	92.8	95.5	93.9	89.6	92.7	97.4	102.2	99.2
成分調整牛乳	販売個数	189.6	189.7	190.0	190.0	189.9	189.8	189.7	189.7
	販売個数前年比	93.7	96.4	99.0	93.4	94.5	101.3	102.4	100.3
加工乳	販売個数	174.0	174.1	173.4	173.8	173.6	174.1	174.1	174.4
	販売個数前年比	79.6	81.9	81.1	80.7	81.5	85.6	87.4	84.4
乳飲料	販売個数	96.4	98.7	96.1	94.1	97.0	104.4	104.4	99.3
	販売個数前年比	189.5	190.5	191.0	189.2	189.7	188.3	190.5	190.4
トータル	販売個数	5,495	5,666	5,755	5,578	5,638	5,900	6,149	5,927
	販売個数前年比	92.9	94.5	93.6	89.1	91.2	96.7	102.1	98.3
トータル	販売単価	149.6	150.0	149.9	149.6	149.8	149.7	149.8	149.6

【グラフ 各品目直近の販売本数推移】



【ヨーグルト類の販売速報(推定値):(一社)Jミルク調べ】

(1)直近の週次動向(表③参照)

直近(7/4週)の販売個数は、ドリンクタイプ(90~250ml):前年同期比90%以上、個食タイプ(70~130ml):同90%以上、大容量タイプ(350~500ml):同90%以上。

一昨年比ではドリンクタイプは90%以上、個食タイプ90%以上、大容量90%以上となっている。

【表③ ヨーグルト類の販売動向】

品目	5.16-	5.23-	5.30-	6.6-	6.13-	6.20-	6.27-	7.4-
ドリンクタイプ	👇	👇	👇	👇	👇	➡	➡	👇
個食タイプ	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇
大容量タイプ	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇	👇

- 👇 : 前年比90%未満
- 👇 : 前年比90%以上100%未満
- ➡ : 前年比100%以上105%未満
- 👇 : 前年比105%以上110%未満
- 👆 : 前年比110%以上120%未満
- 👆 : 前年比120%以上

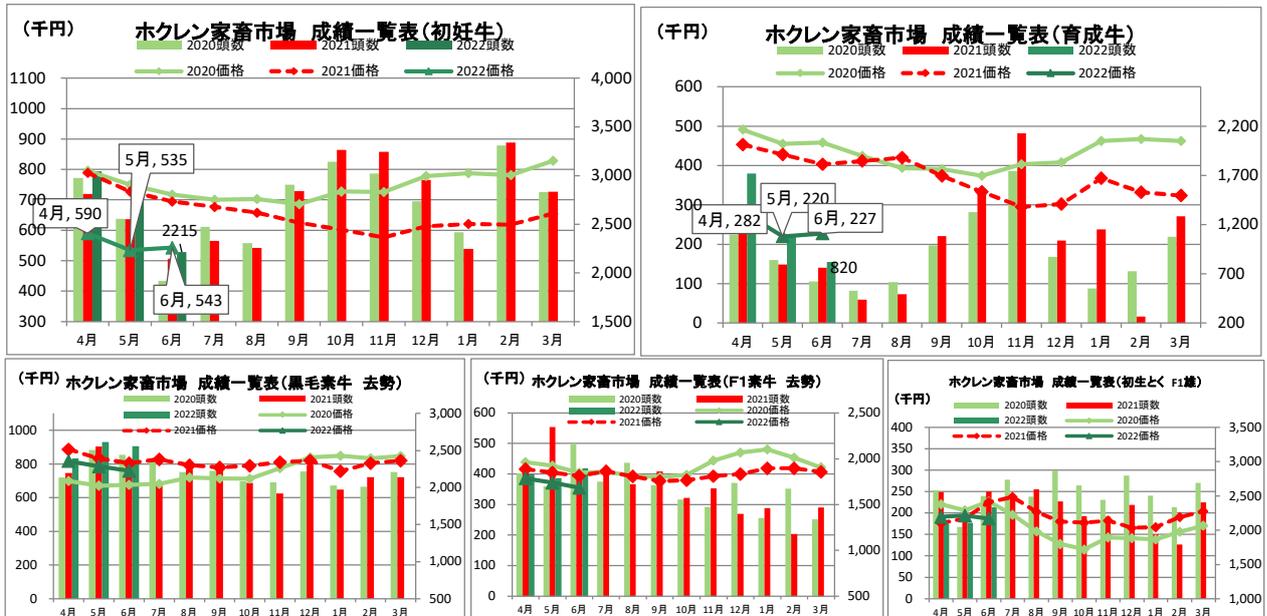
※なお、下地の色が濃いほうが、上記範囲内で前年との増減差が大きいことを表す。

【家畜販売価格動向】

(1)6月の家畜販売価格動向について、ホクレン家畜市場集計によると、初妊牛価格は543千円(前年同期比78.1%)、育成牛価格は227千円(同56.3%)、和牛素牛(去勢)価格は759千円(同94.3%)、F1素牛(去勢)価格は355千円(同90.1%)、F1初生(雄)価格は187千円(同83.0%)。

(2)上場頭数(出回り頭数)は、初妊牛:同103.2%、育成牛:同107.8%、和牛素牛(去勢):同108.6%、F1素牛(去勢):同102.0%、F1初生(雄):同91.0%。

※ホクレン家畜市場集計表 速報値(<https://www.kachiku.hokuren.or.jp/Downloadresult.aspx>)

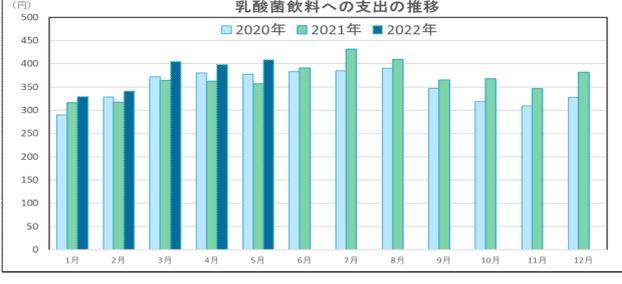
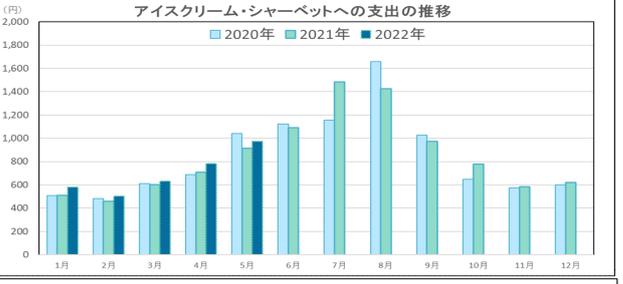
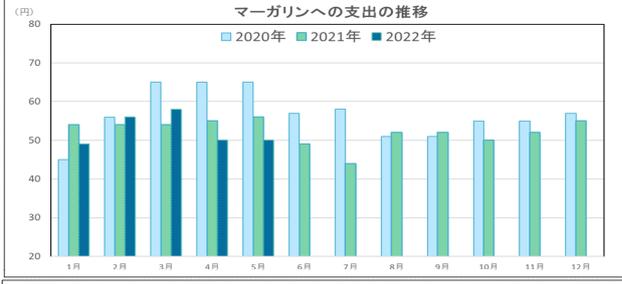
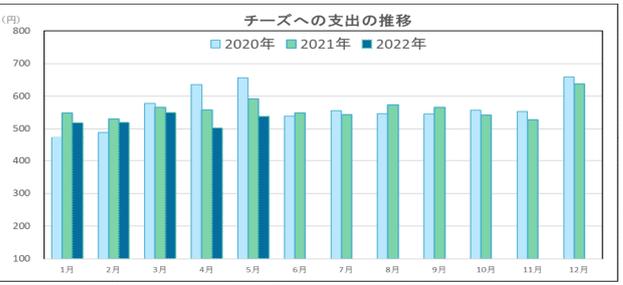
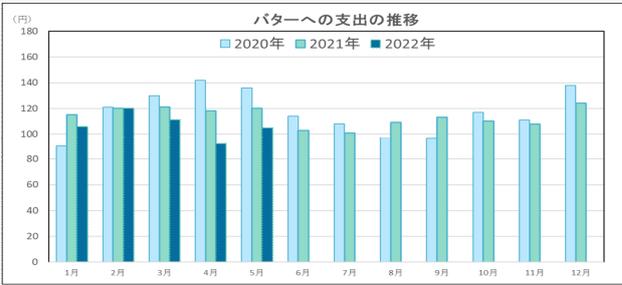
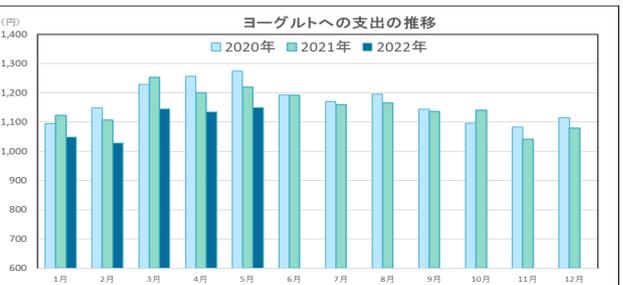
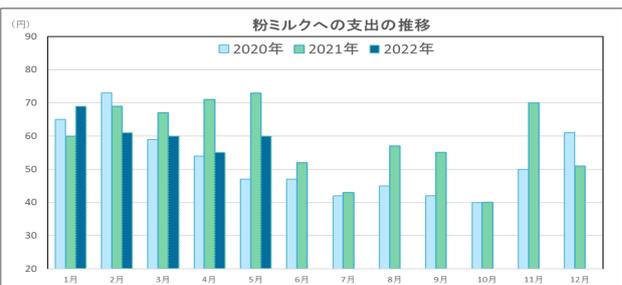
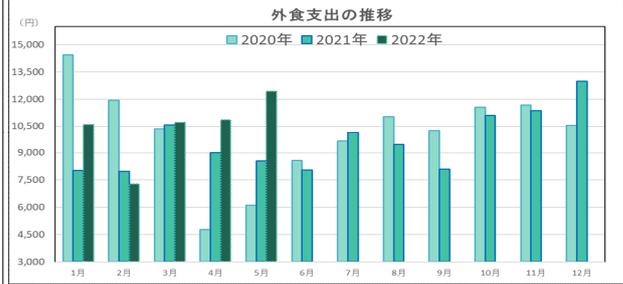
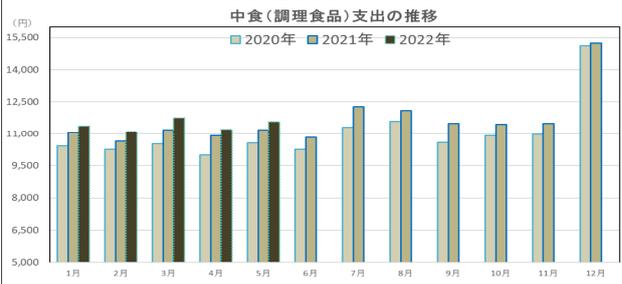
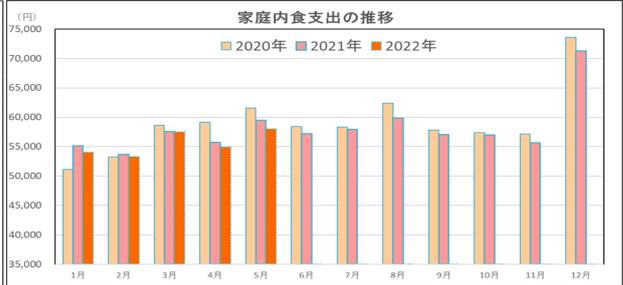
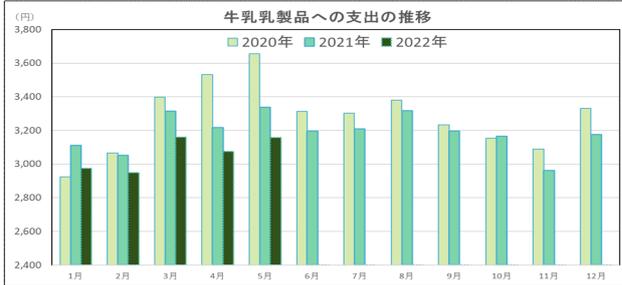


【家計支出の動向】

(1)5月の牛乳乳製品の支出額について、11月から7か月連続で前年を下回った。(前年比:95.6%、うち牛乳99.1%、乳製品91.9%)。

(2)内食が前年を下回り、外食、中食支出は前年を上回る傾向が続いている。特に外食は前年比145.6%となっており、3年ぶりに新型コロナ制限措置が発出されていないGWとなったため、外食需要が大きく増加したと推察される。

※総務省家計調査（家庭内食は、食料-調理食品-外食で独自に算出）



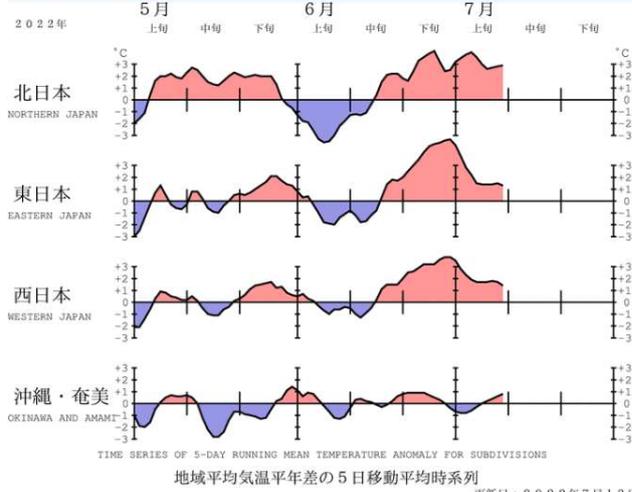
【気温の動向】

(1)6月の気温変化について、全国通じて上期は平年よりも気温が低く、下期にかけて平年よりも暑い日が続いた。
 (2)今年の夏(7-9月)の気温について、全国的に平年より高くなる確率は50%以上と予測されている。

※出典:気象庁

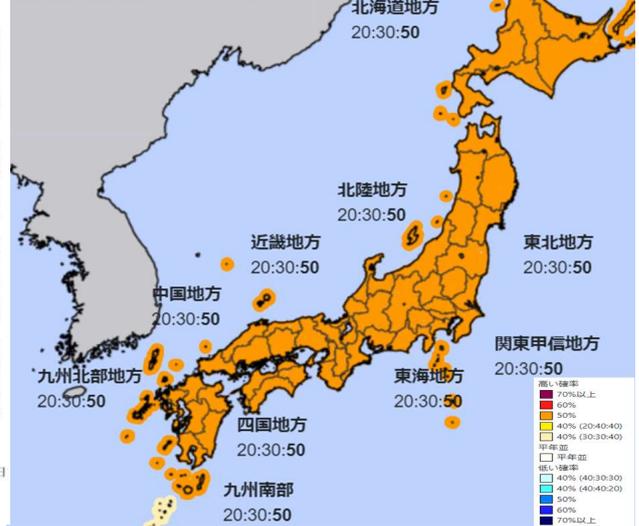
※参考資料

前3か月間の気温経過



上図では、5日移動平均値(前後各2日を含む5日間の平均値)を平均期間の真ん中の日に表示しています。平年値は1991~2020年の30年間の観測値の平均をもとに算出しています。

2022年06月21日14時00分発表
07月-09月の気温



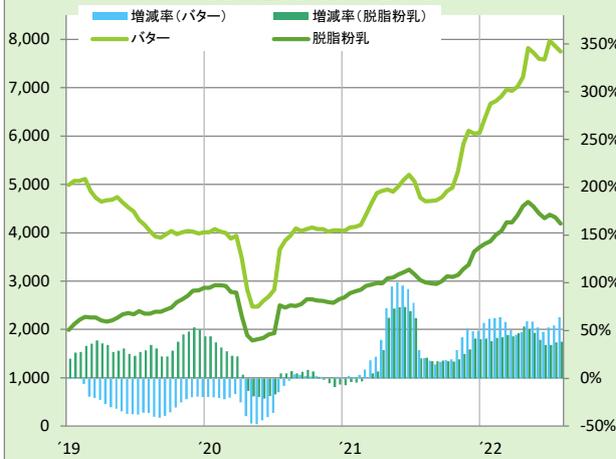
【乳製品輸出価格の動向】

(1)直近の乳製品国際相場について

- ・欧州:脱脂粉乳4,200ドル/ト、バター7,800ドル/ト中心
- ・オセアニア:脱脂粉乳4,200ドル/ト、バター5,900ドル/ト程度、チェダーチーズは5,200ドル/ト中心

※出典:米国農務省(USDA)

(US\$ / ト F.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(欧州)



(US\$ / ト F.O.B.port) 乳製品輸出価格の推移(オセアニア)



※「2022年度生乳需要基盤確保事業 独立行政法人農畜産業振興機構 後援」